

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念の下、地域の中で安心してその人らしく生活できるように支援するケアを心がけている	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議の中でも折に触れ理念を具体化して話し合っている	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族交流会や地域運営推進委員会でも、その度説明し、理解を深めてもらえるように努めている	<input type="radio"/> 今後は地域の集まりに積極的に参加し、事業所の実践を伝えるようにしていきたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩のときのあいさつはもちろん、近所の人から庭の花を切ってもらったり、犬の散歩中の人と立ち話をしたりと自然な付き合いを心がけている	<input type="radio"/> 今後もこちらのほうから積極的にあいさつ、声掛けをしていきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や近所にある曾田文庫に出向いたり、近隣の小学生が遊びに来たりと、出来る範囲で交流するように努めている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のお年寄りが相談にこられることがあるが、そのときは個別に対応して相談にのっている	<input type="radio"/>	今後も研修生の受入れを積極的に行っていききたい 地域の研修や会合に出かけていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。ミーティングで報告し、改善策等話し合いをしている	<input type="radio"/>	年1回の評価を実施することで原点に戻り、サービスの質の向上に向けて職員一丸となって最大限の努力をしていきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はホームからの報告と参加者からの意見、要望を聞き、改善に向けた取り組み等話し合っている。限られた時間のため、報告のみで終わることもある	<input type="radio"/>	今後は町内会長を始め、さまざまな方面の方から参加してもらえよう、地域に声掛けをしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今のところ、市町村との行き来が運営推進会議内に限られているのが実情である	<input type="radio"/>	ホームの考え方や実態を市担当者によく知ってもらうことで、課題解決に向けた協働を図っていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今のところ、成年後見が必要なケースが見当たらないため、管理者の研修だけで終わっている	<input type="radio"/>	今後勉強会を開き、全職員が理解、活用できるようにしていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で虐待につながらないようなケアに努めている	<input type="radio"/>	ホーム内研修はもちろんのこと、今後は外部機関主催の研修にも参加し、虐待防止の知識を深めていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には事業所のケアに関しても取り組みを説明し、また退去に際しては十分な説明と話し合いをしながら納得の上解除に至っている</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力をして、利用者本意の運営を心がけている</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には声をかけ、利用者の状況について話し合っている。特に変わった様子があるときは、電話で連絡している。定期的に機関紙、便り等発行している</p>	<p>○</p> <p>今後も連絡、報告を密にしていきたい</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には訪問時や交流会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるように働きかけている</p>	<p>○</p> <p>今後も担当者等を通じて意見や不満が表しやすい体制に努めたい</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、個別面談、アンケート等で出来るだけ意見を聞くようにしている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化にも対応できるよう、法人内の有償ボランティアの利用等柔軟な対応を心がけている</p>	<p>○</p> <p>今までは職員の急な休みなどの対応が管理者や主任に限られ負担が大きかったが、9月より柔軟に対応できる職員を配置し、利用者や職員の状況の変化にも、対応できるように改善を図っている</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員によるケアを心がけているが、異動や離職がやむを得ない場合も、時期や引継ぎの面で最善の努力をしている</p>	<p>○</p> <p>利用者、家族の信頼関係を築くためにも、異動や離職を最小限にするよう心掛けたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。そして毎月のミーティング時に研修報告として発表してもらっている</p>	<p>○</p> <p>今後も段階に応じた研修を受けられるようにしていきたい。そして職員の希望する研修は出来るだけ参加できるように心掛けたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームの見学や、他ホーム主催の研修会に出来るだけ参加するようにしている</p>	<p>○</p> <p>10月より法人内の二つのグループホームで相互研修をすることになった。相互研修を通して交流や連携を計っていきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>毎月のミーティング時、その月の誕生の職員へお花のプレゼントをし、なごやかな雰囲気をかもし出す様にしている。東部勤労者共済会にも加入、利用することにより福利厚生の実を享けている</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年1回アンケート、レポート提出等で職員の思いや、悩みの把握に努めている</p>	<p>○</p> <p>今後も職員の思いに対して、可能な限り対応していきたい</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談では本人の自宅に出向き、生活状況の把握に努め、本人の不安には出来るだけ理解するよう努めている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の困っていること、事業所に求めていること、今後のかわり方等できるだけ話をきくようにしている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等確認の上他の事業所のサービスにつなげる等の対応をしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に音楽療法に参加してもらったり、一緒に食事してもらったりと徐々になじんでもらい、サービスを利用してもらったケースもある		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ利用者の力を発揮してもらえるように心掛けている。その為には感謝の言葉は欠かさないようにしている。利用者からは絶えず労わりの言葉や励ましの言葉を頂いている	<input type="radio"/>	今後も一方的なかかわりにならないよう、確認しながら支援していきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所の折には利用者の様子をきめ細かく伝える努力をしている。家族と職員が一緒に本人の生活を支えている関係作りを心掛けている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会や交流会、外出時に家族を誘ったりしながらより良い関係の継続に努めている	<input type="radio"/>	家族には本人の状況を頻繁に報告していく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理髪店に月1回出かける利用者、知人に会いに出かける利用者、友人の訪問のある利用者など様々である	<input type="radio"/>	出来るだけ馴染みの関係を継続してもらよう支援していきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で食事介助したり、椅子まで手引きで案内したる光景が見られ、職員が見守っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も家族の方が話しにこられたり、野菜を分けてもらったりと関係が続いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ、日々の関わりの中での声掛け、言葉や表情から汲み取るように努力している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の話や、家族、知人等の訪問時に少しずつ把握に努めている	<input type="radio"/>	暮らしの希望、意向について今後も把握に努めていきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人自身から話を聞いたり、家族、知人等の訪問時に聞くことで少しずつ把握に努めている	<input type="radio"/>	年1回のセンター方式のシートを記入し、現状の把握に努めている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回の職員会議で、職員全員で話し合ったり、家族訪問時には日頃の関わりの中で意見を聞き、介護計画に生かしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化したときには、職員で話し合いながら、介護計画の見直しを図るようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙にその日の様子や、食事量、入浴、服薬確認、排泄等記入している、休みの職員も必ず目を通して情報を共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院介助や送迎等必要な支援は柔軟に対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、地域の防火隊、民生委員と協力体制を計っているが、今後ますます連絡を密にとりあい利用者の安全も守っていききたい		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在まで、他のサービスを利用したケースはない	○	今後必要に応じて介護保険外の生活支援に結びつくサービスが受けられるよう支援していきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員にも参加してもらっている。周辺情報や支援に関する情報交換など協力関係を築きつつある		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医で医療が受けられるよう支援している。家族と協力し、通院介助を行ったり、訪問診察に来てもらうケースもある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>ホームの嘱託医が認知症の専門医で折にふれ相談、助言してもらっている</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>週に一度、看護師との個別契約に基づき日ごろの健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐため、家族とも情報交換しながら、回復状況に応じて速やかな退院支援に結び付けている</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末に対する対応指針を定め、家族と同意書を取り交わしている</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人の気持を大切にしつつ、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう、家族と話し、方針を確認している</p>	<p>○</p> <p>医療機関との連携を密に図りたい ・夜間、休日、緊急時の対応が困難なため、救急病院への対応になっている。今後終末期に向けた支援について検討、準備、勉強をしていきたい</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の施設に移られた場合、アセスメント、ケアプラン、支援状況等を手渡すと共に情報交換を行っている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会の折に、常々利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底を図っている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ本人の思いを大切にしよう努力している。意思表示が難しい人には表情やしぐさで把握するよう努めている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、一人ひとりの体調に配慮しつつ、その日その時の本人の気持を大切に、出来るだけ個別に関わるような支援をしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	手先の器用な職員が、利用者の髪をカットしたり、毛染めをしたりしている。また、男性利用者は近くの馴染みの理髪店に出向いたり個々の希望に応じて支援している	○ 外出の際は出来るだけお洒落して化粧してもらおうよう支援していきたい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理、盛り付け、片付け等行っている。三食とも職員と利用者が楽しく会話しながら、一緒に食事をしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎晩晩酌を欠かさない男性利用者、お祝いの席だけお酒をたしなむ利用者、甘いものが大好きな利用者等一人ひとりの状況に合わせて支援している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用して、早め早めの誘導をするように支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員のローテーションの関係で時間帯は限られているが、本人の希望を尊重して入ってもらっている	○	福岡まで研修に出かけた職員2名と一緒に裸になって入浴支援する必要性を痛感し、時々実行し一緒に入っている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後片づけを手伝ったり、洗濯干しをしたり、テレビを見たり、気の合った人同士おしゃべりをしたりと、各々の時間を過ごしながら就寝にむけてのリズムが作られているように思う		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事を中心に一人ひとりの力を発揮してもらえよう仕事を頼み、感謝の言葉は必ず伝えるようにしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、事業所が管理しているが、そのほかに小額を自分の財布に入れてもらい、外出時や喫茶店でお茶を飲んだときその中から払ってもらうように支援をしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、ドライブ等は日常的に出かけている。歩行困難な人も家族の応援により車椅子で戸外に出かけてもらうよう働きかけ、協力してもらっている	○	その日の利用者の状態、希望、季節などその時々状況に応じて、一人ひとりが外出を楽しめるよう支援していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に2～3回はお弁当持参でピクニック(花見、紅葉)に出かけたり、温泉、美術館での喫茶等、出来るだけ外出する機会を作っている	○	今秋、居酒屋に行きたいと申し出の有った利用者の希望に添えるよう家族と話し合い、実現に向けて努力したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望によっては年賀状を代筆したりする。申し出があればいつでも電話をかけてもらったり、難聴の人にはこちらで取り次いで報告したりと各々に応じて支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友達の方たちがいつでも気軽に来られるよう、アットホームな雰囲気を心掛けている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今までも、これからも「どんなことがあっても拘束は行わない」という姿勢でケアに取り組んでいる	○	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所で実施する事で自覚しない身体拘束が行われていないか点検していきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけたり、一緒に出かけたりしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の少ない時間帯には、利用者と同じ空間で記録を記入し、全員の状況の把握に努めている。夜間は数時間ごとに利用者の様子を確認して安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じて、保管管理が必要なもの、利用者が使う時に注意が必要なもの等分けて管理している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々、ヒヤリハットを記録し、職員会議や申送り時に話しあっている。事故発生時は速やかに事故報告書の作成、今後の予防対策について検討し、家族に説明、報告している	○	ヒヤリハット、事故報告書を今後のケアに活かしていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	1年に1回の救急法の研修に出来るだけ職員が参加するようにしている。参加した職員が中心となり、職員会議のときに全員で救急手当や蘇生術の研修を行っている	<input type="radio"/>	夜間の緊急対応マニュアルも定期的に見直し整備し周知徹底を図っていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防火隊総会に出席し、地域(町内会防火隊)とホームの連携について話し合っている。また避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている	<input type="radio"/>	今後、地域と協力しながら避難訓練等実施していきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりのリスクの把握に努めている。そのつど家族には説明している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、利用者の様子に変化がみられたときは、バイタルチェックを行い、記録をつけている。状況により医療受診に繋げている	<input type="radio"/>	これからも体調の変化の著しい利用者には早急に家族に連絡し連携していく
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を利用者ごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ自然排便が出来るよう、繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている。また散歩や運動など身体を動かす機会をなるべく多く作るよう心掛けている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けをして、力に応じて見守ったり、介助している。年1回歯科検診も行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況は毎日チェック表に記録、水分量も把握している。一人ひとりの一日の栄養摂取量を大まかではあるが把握している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日頃よりうがいや手洗いなど、感染予防に努めている。トイレ使用時のタオルを一回ごとに洗い、消毒している。利用者、職員共にインフルエンザの予防接種を受けている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は毎晩漂白している。調理用具、台所水回りはこまめに掃除、清潔、衛生を保つようにしている。新鮮な食材を使用するため、ほとんど毎日買物に行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には手作りの表札、玄関先には利用者と一緒に作った手作りの庭もあり、明るい雰囲気を中心掛けている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯が炊けるにおい、ラッキョウ漬け、送り団子、菖蒲湯等々、五感や季節感を出来るだけ採り入れるように心掛けている。職員持参の四季の花は絶やすことがない		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファや座卓、二階のホールにもソファが置いてあり、気のあった利用者同士、話し合ったり、くつろいだりしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使っていたたんすやテレビを持ち込まれたり、床に畳を敷いて和室風に使われたり、カーペットを敷いたり、利用者の好みのものが用意されている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気との温度差があるときは、温度計と利用者の様子を見ながら調整をしている。普段は出来るだけ自然な風を採り入れるよう窓も玄関も開放していることが多い	○	温度調節は個人差もある為利用者の衣類の調整などにも配慮している
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、部屋に手すりを取り付けてもらったり、台所、廊下、トイレ、浴室に手すりを取り付け、安全確保と自立への配慮をしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前に手作りの表札をかけている。また好みののれんをかけてもらうことで混乱しないようにしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に庭を造り、季節の花を植えたり、南側の庭に四季の花を植えたりして全員で楽しんでいる		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気のもと、出来るだけ普通の暮らしが出来るように職員一同取り組んでいます。玄関はいつも開放しており、来客は大歓迎です。ホームの中に入って利用者の皆さんの表情を是非ご覧下さい。ホームの中はいつも美味しそうな匂いと笑い声に包まれています。